

梅田リーグ(ティーボール)野球規則

[01]球場施設

塁間=18.29m、ピッチャー=14.02m、本塁-2nd=25.82(25.86)、
ボールデッドサークル(ピッチャーサークル)=直径2m、ファウルライン=本塁から4.5m、ホームランライン=左翼36m 中堅42m 右翼36m

[02]使用球

ZETT製 BB1400 を使用する。

[03]バッティングティースタンド

上下に伸縮し、本塁ベースに安定して置くことができる打撃ティースタンドを使用する。

[04]用具・衣服

各野球部体に規則に適合したグラブ・バット・シューズを使用する(トス同様スパイクシューズは任意)。
新入部員(体験者)・混成チームを除き、帽子・ユニフォームは統一したものを着用する(背番号は必須)。
バットは、トスと同様、JSSBマーク付きの金属バット 又は木製バット。

[05]チーム編成

登録された3年生以下で編成されたチーム(新入部員(体験者)・新入団の4年生も調整で可とする)。
成人の監督(責任者)1人と、任意のコーチとする。

[06]試合中のコーチング

攻撃：一、三塁コーチャーズBOXで選手に指示を与えるほか、一人は主審の横で打者を指導(任意)。
その他は一般野球と同様とする。

[07]選手・交替

試合は9人で行うが、当日のチーム調整で11名までの編成でもプレーする。交替した選手の復帰は不可とする。

[08]審判

4人で行う(3人制でも良い)。
主審は当該チーム以外、塁審は出来るだけ当該チームに対応する。その都度調整。
主審は判定に最終的な権限を持つ。また主審はティーの上にボールを乗せる他、本塁でのプレーが予測される場合、事前にティースタンドを走者の進路外へ移動する。
チーム編成やピッチャー制採用、試合前に監督間で決定して適用することとする。

[09]試合

- ・6イニングス、または30分の時間制限とする(30分を超えて次のイニングに入らないが、そのイニングは成立させる)。
但し、後攻チームの勝利が確定している場合は、Xゲームとして終了する。
- ・3アウト制を優先し、3アウトにならない場合は(打者一巡)で攻守交代とする。
- ・同点の場合は引き分けとする。

[10]集合

前試合が終了したら、速宜集合する。但し前チームの片付けが終了してからベンチ入りすること。

[11]試合開始

両チームの試合前に主行のジャンクンで攻守を決める。
守備が定位置についたら、主審がティースタンド上にボールを置き必ず「プレーボール」を宣告する。
その後、ピッチャーは投球動作を行い、打者はその終了後にティーのボールを打つ。

[12]バッティング動作について

打者はフルスイングをすること。

[13]ファウルボール

野球のファウルボールの他に、次の2点を追加する。
(1)打球がホームから4.5mのファウルゾーンに止まった時。
(2)打者がバント・ハーフスイングでボールを打った時。

[14]三振

2ストライク後、バットがボールに直接当たらない場合は三振とする。

[15]バッタランナー・ランナー

1st.はスライディング禁止、他塁はスライディング可とするがヘッドスライディングは禁止とする。
ランナーはバッターがボールを打つまでは離塁してはならない。審判が早くと認めた時はアウトとする。

[16]ボールデッド

打撃によるプレーが終了し、選手がピッチャーサークル内でボールを保持した時。
この時点で走者は塁に就いていなければならない。ボールデッドになった時点で、走者が塁にいるときは進塁できず手前の塁に戻る。
3アウト時は、ボールデッドと同じ扱いが良い。

[17]ヘルメット

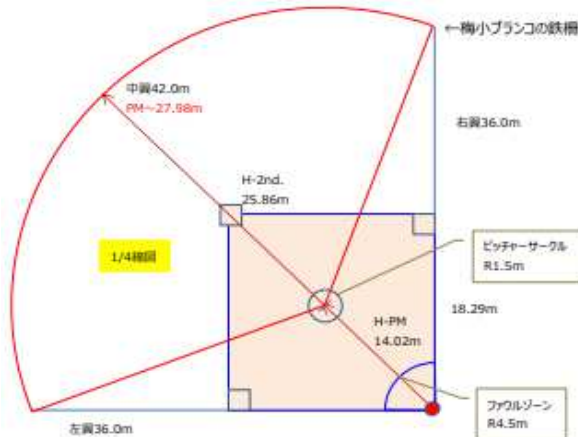
打者・走者ともヘルメット(両耳保護付き)を着用する。捕手もヘルメットを着用して守備に就く。

[18]特別ルール

打者一巡時の最終バッターは、アウトカウントを2アウトとする。

[19]その他

5チームの場合、30+5分(インターバル)×5試合実施で約3時間、各チーム2試合実施する。
ルール：日本ティーボール協会神奈川県連盟・神奈川ナショナルティーボール連盟(神奈川県野球協議会)に準ずる。



塁間	18.29m
ピッチャーマウンド	14.02m
H-2nd.	25.86m

中翼	42.00m
右左翼	36.00m
PM~センター	27.98m

ピッチャーサークルD	2.00m
ファウルゾーン	4.50m